

京都国立博物館

だより

二〇二〇年
一二三月号



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2020 January to March vol. 205



新春特集展示
子づくり—干支を愛でる—
京都御所障壁画
紫宸殿
特集展示
神像と獅子・狛犬
特集展示
雛まつりと人形
特集展示
聖地をたずねて
西国三十三所草創三〇〇年記念特別展
【予告】
西国三十三所の信仰と至宝—

子づくし——干支を愛でる——

令和2年1月2日(木)～2月2日(日)
【平成知新館 1F～2】

十二支は、中国から東アジアの各地に少しづつ形を変えて伝わりました。どの地域でも、十二支の先頭

に鼠がいます。本展では、朝鮮半島の墳墓の北方を護った子像の拓本が並びます(図2)。

日本の神話では、鼠が大国主の窮地を救いました。インドから大黒天が伝わると「大黒」と「大国」が

一体化して富と豊穣をもたらす大黒さまになり、鼠は昔

のよしみでその使いに取り立てられます。多産の鼠には子孫繁栄の願いも託されました。そんなありがたい鼠たちが江戸時代にはペットとして人気を博します。珍種を得るために交配の手引書も刊行され、現在の実験用マウスに通じる大人しい鼠も作られました(図3)。

アメリカ生まれのキャラクターが世界的に成功するずっと以前から、鼠たちは美術の世界で活躍してきました。子年の初めにどうぞ眺めにいらしてください。

(永島明子)



【図3】蠟燭に鼠根付 線刻銘「岡友」
京都国立博物館



【図2】新羅十二支像護石拓本のうち子像
梅原末治氏寄贈・京都国立博物館

京都御所障壁画 紫宸殿

特集展示

令和2年1月2日(木)～2月2日(日)
【平成知新館 2F～4】

紫宸殿は、内裏(現在の京都御所)に建つ諸殿舎のなかでも最も格式が高く、その中心となる御殿です。古くは、節会(公事のある日に宮中で行われた宴会)で天皇が出御し、群臣に酒饌を賜つた)をはじめとする儀式や日常の政務が執り行われてきましたが、治承元年(一一七七)に大極殿が焼失したのちは、即位や大嘗会などの重要な儀式も行われるようになりました。

その紫宸殿の母屋と北底を仕切る九面の障子を、賢聖障子といいます。賢聖障子は高御座の後方に位置し、中央の一面には獅子狛犬と瑞獸である負文龜が、残る八面には中国殷代から唐代にいたる賢臣が各面四人、計三十二人描かれています。各人の上部には色紙形が貼られ、名前や功績などが記されるという形式がほぼ定まっており、平安時代にさかのぼる歴史があります。

内裏は、歴史上たび重なる火災に見舞われ、その都度再建されてきました。現在の京都御所は、幕末の嘉永七年(一八五四)に焼失したことを受け、翌年の安政二年(一八五五)に造営されたものです。そのため、内部を飾る障壁画はそのほとんどがこの安政度の再建時に新調されていますが、賢聖障子は焼失を免れ、寛政度の内裏造営時に幕府御用絵師住吉広行(一七五五～一八一二)が描いたものが残っています(一部に後補あり)。ただし、この寛政度賢聖障子の完成は光格天皇の還幸から遅れること約二年、寛政四年(一七九二)十月のことでした。これは、幕府儒官柴野栗山が主導した綿密な図様考証に時間を要し、何度も下絵の修正が行われたためです。

現在、紫宸殿には昭和四十年代に制作された模写が立てられ、原本は別に保管されているため、通常は目にすることができません。今回の特集展示は、この賢聖障子が九面すべて公開されるたいへん貴重な機会です。

(福士雄也)



紫宸殿 賢聖障子のうち東二間
住吉広行筆
宮内庁京都事務所

神像と獅子・狛犬

特集展示

令和2年1月2日(木)～3月22日(日)

【平成知新館 1F～1】

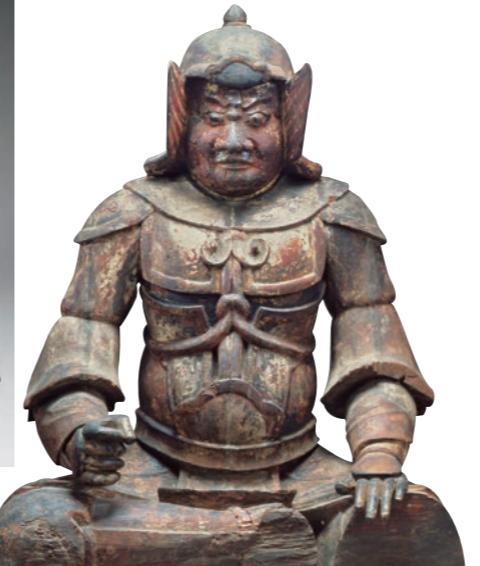
われわれのご先祖さまは、神さまをどのような姿と考えていたのでしょうか。

今にこる神々の像は、さまざまな姿をしています。京都・蘿田神社の男神坐像のように、冠をかぶつて袍をまとめて笏を手にした貴族のような姿のものあり。京都・大将軍八神社の武装形神像(図4)のように、甲冑をまとめて怒りの表情をうかべているものあり。その姿はバラエティーに富んでいます。

一方、その神さまをまもる役目をもつた獅子・狛犬たちも、時代によってその姿は変化します。たとえば滋賀・御上神社のもののように、平安時代後期のものは穏やかで、たてがみも流れるようにあわせられています。それが鎌倉時代になると、おなじく滋賀・大宝神社の例(図5)のように、写実的に荒々しくなるというように、仏像と同様の変化をみせます。

仏教像とは一味違った魅力を持つ神像、どこか愛らしい、獅子・狛犬たち。そのすがたを、どうぞ堪能ください。

(浅湫毅)



【図4】重要文化財 大将军神坐像
京都・大将军八神社



【図5】重要文化財 獅子 滋賀・大宝神社

3F-1 平成知新館
日本と東洋のやきもの
名品ギャラリー

3F-2 考古
令和2年1月2日(木)～3月15日(日)
*3月17日～22日は閉室

聖地をたずねて —西国三十三所の 信仰と至宝—

令和2年4月11日(土)～5月31日(日)

*会期中、一部の作品は展示替えを行います。
【平成知新館】

西国三十三所は、養老二年(七一八)、大和國長谷寺の開基・徳道上人が、閻魔大王から「生前の惡行により地獄へ送られる者が多い。人々が觀音靈場へ参ることで功德を得られるよう、觀音菩薩の慈悲の心を説くよう」にとお告げを受け、起請文と三十三の宝印を授かつたことにはじまるといいます。徳道上人が極樂往生の通行証となる宝印を配った場所が、觀音靈場を巡る信仰となり、三十三の札所を巡る日本最古の巡礼路となりました。

巡礼路の総距離は約一〇〇キロメートルに及び、和歌山・大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・岐阜と近畿圏を

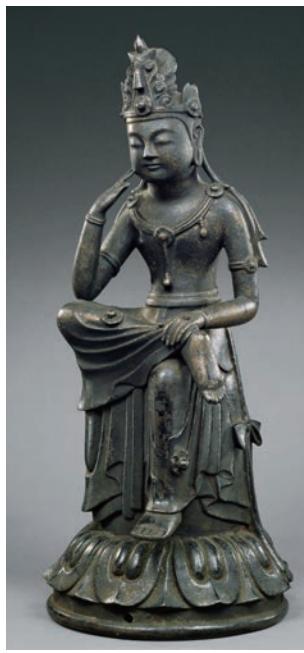


重要文化財 千手觀音立像 京都・醍醐寺

包括するように伸びています。長きにわたり、日本の首都であり、文化の中心地である京都に三分の一の靈場が集中していることから、觀音信仰と巡礼の文化は全国に広がりました。

西国三十三所草創から一三〇〇年。これを機としてゆかりの深い京都の地で、特別展を開催いたします。今もなお、老若男女、国籍を問わず、人々をひきつける巡礼の魅力を、美しい觀音菩薩の姿や各札所の寺宝を通じてご紹介します。觀音信仰とともに守り伝えられてきた至宝の数々をご堪能ください。

(羽田聰)



重要文化財 菩薩半跏像 奈良・岡寺



重要文化財 如意輪觀音像 一山一寧賛 京都・松尾寺

特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」によせて もうひとつの再会

大和文華館学芸部長 泉万里

昨秋の特別展の広報では、一九一九年に解体、分割された「佐竹本三十六歌仙絵」のうち、住吉男神の風景を描く一図と、歌仙を描く三十図の「奇跡の再会」が大きく報じられた。

もちろん、本展は佐竹本だけではなく、「…と王朝の美」とタイトルに付け足されているように、歌仙絵も含め、和歌から生まれた多彩な造形を一望するとともに、長い伝来の過程で、大勢の歌仙を並べた歌合せ絵や、美しく書写された和歌集が、巻子や冊子といつともとの形をほどかれ、分割された後に新たな姿で蘇る、作品の転生にも光を当てた展覧会であった。特別の場合を除けば、トルに付け足された歌合せ絵や、美しく書写された和歌集が、巻子や冊子といつともとの形をほどかれ、分割された後に新たな姿で蘇る、吉野の冬に思いをはせる詠歌にふさわしい景色に金の雲霞が花を添える。

私がこの表装に気づいたのは、十五年前のことだ。京都国立博物館の今は取り壊されてしまった「新館」の常設展示室の一隅で、雲母特有の鈍い輝きを放つ表装に包まれた「是則像」に出会い、この表装に使われたのは、雲母引きの紙に、金箔をさまざまに形に切って貼った雲や霞を配した、室町時代の大画面絵画の一部にちがいないと思った。雲や松、雪山の描法は「日月山水図屏風」(金剛寺蔵) や「日月図屏風」(東京国立博物館) の右隻に近い。

そして、二年前に、MOA美術館を訪問した際に、展示されたいた「平兼盛像」(MOA美術館蔵) の前で足が止まつた。その表装の中廻しにも、「是則像」と同じ画面の一部と思われる紙が使われていたからだ。その分量は、わずかなものである。しかし、格式を備えた堀や、中景部分に相当すると思われる、やや大きなサイズの木々に雪が降り積もっている情景を見ることができる。

兼盛の詠歌は大晦日の感懷を詠うもので、季節は冬。そこで「是則像」の表装に使つた雪景色の画面の余りが活用されたのだろう。二つの歌仙絵は、同じ場所で表装されたとおぼしい。

それ以来、この二点の掛幅を並べて、表装部分を見比べたいと。いうのが私の夢だった。そして本展で、その夢が叶つた。離ればなれになつた屏風の画面は、隣り合つて並んだ会場で久闊を叙していたに違いない。こうして、歌仙の再会のかげで、もうひとつ



土曜講座

- 1月11日「三十三間堂の仏像」
京都国立博物館連携協力室長 浅瀬 毅
- 1月18日「動物埴輪はなぜ造られたか—動物と古墳時代の人々—」
京都国立博物館主任研究員 古谷 毅
- 1月25日「江戸時代後期、御所造営とともに作られた賢聖障子の製作過程」*
帝京大学准教授 鎌田純子 氏
- 2月1日「おそるべきねずみたち」**
京都国立博物館教育室長 永島明子
- 2月8日 土曜講座 1900回記念「京都国立博物館の過去・現在・未来Ⅱ」
京都国立博物館館長 佐々木丞平
- 2月15日「近世陶磁器の彩色材料」
京都国立博物館保存科学室長 降幡順子
- 2月22日「近世の画家のスケッチ」
京都国立博物館研究員 福士雄也
- 2月29日「庭園と花鳥一中世花鳥画の世界ー」
京都国立博物館研究員 森 道彦
- 3月7日「絵画の模写について」
京都国立博物館学芸部長 朝賀 浩
- 3月14日「法然上人行状絵図(四十八巻伝)への道程—法然上人伝説の生成と展開—」京都国立博物館名誉館員 若杉準治 氏
- 3月21日「鳥獸人物戲画甲巻の成立背景—月と兔の2500年史ー」
京都国立博物館上席研究員 宮川禪一
- *…特集展示「京都御所障壁画 紫宸殿」関連講座 **…新春特集展示「子づくし」関連講座
※平成新館 講堂にて、13時30分～15時に開催（2月8日のみ明治古都館にて開催）。定員200名、聽講無料（ただし当日の観覧券等が必要）。
※当日12時より、平成新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

◆名品ギャラリーの休止および部分開館の予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止、または部分開館しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー部分開館：3月17日（火）～3月22日（日）

* 2F、1F-1、2（3F、1F-3～6は閉室）

名品ギャラリー休止期間：3月24日（火）～6月（予定）

庭園のみ開館期間：3月24日（火）～4月9日（木）

ご利用案内

[開館時間] <1月2日～3月22日>

9:30～17:00

*金・土曜日<3月6・7・13・14日を除く>は20:00まで開館

<3月24日～4月9日>

9:30～17:00 ※入館は各閉館の30分前まで

[観覧料] [名品ギャラリー] <1月2日～3月22日>

一般 520円（410円）、大学生260円（210円）

*（ ）内は団体20名以上

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。

*キャンバスメンバーズ（会員）は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

[庭園のみ開館期間] <3月24日～4月9日>

一般 260円（210円）（庭園ガイド冊子付き）

*（ ）内は団体20名以上

*大学生以下、満70歳以上、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。

[休館日] 月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）、

4月10日

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂前下車すぐプリンセスライナーバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒（角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館企画室までお申し込みください。



T 605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2020年1月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社 ライブアートブックス

